

第8章

関連資料



5月17日 山陽新聞

ESD-J の事業一覧

2006 年

開催日	活動区分	開催地	事業名	内 容	参加人数
5月 29 日	政策	東京	第 1 回 ESD 情報交換会 ～政府と市民の意見交流 ミーティング～	開催政府や関係機関の担当者と、全国各地で ESD を実践する市民が参加し、各省庁の ESD 関連事業の紹介や、地域での実践事例の報告などをとおして、官・民が情報を交換。今後の対話に向けて「顔のみえる関係」を築く	71 名
6月 14 日 ～ 15 日	国際	宮城	アジア協力対話 (ACD) 第 3 回環境教育推進対話	仙台市および松島町にて、アジア協力対話 (ACD) 第 3 回環境教育推進対話を開催。ESD の 10 年をテーマに、アジア諸国の取組みについて意見交換。日本の ESD の 10 年の実施計画を公表。共催：外務省、仙台広域圏 RCE、ESD-J	150 名
7月 29 日 ～ 30 日	地域	高知	ESD 地域ミーティング (地域支援プロジェクト)	in 高知 主催：国際理解の風を創る会、共催：ESD-J、国際協力機構四国支部 (JICA 四国)、四万十町自主研「国際理解教育部会」	50 名
8月 4 日 ～ 6 日	国際	東京	AGEPP 第 1 回国際会議	アジア 6 カ国のパートナー団体からの参加者とともに、アジアの各国で取り組まれているさまざまな事例のなかから、ESD の視点や枠組み、事例を共有する意義などを話し合う。8月 4 日夜には、ESD-J 会員と、各国参加者との交流会を開く	30 名
10月 4 日	地域	東京	第 1 回 ESD シナリオづくり プロジェクト	環境教育、人権教育、福祉教育などの地球の課題に取り組む教育分野の全国組織 9 分野 14 団体の担当者が集まり、ESD を各教育のなかで活かしていくためのシナリオづくりのプロジェクト（全 5 回）がスタート	18 名
10月 21 日	地域	埼玉	ESD 地域ミーティング (地域支援プロジェクト) ステップ 2	関東広域圏地域ブロックミーティング in 埼玉 ESD 推進を図るコーディネーター育成のための地域ブロックミーティングの第一弾。主催：持続可能な開発のための教育の 10 年さいたま 共催：ESD-J	25 名
10月 22 日	地域	千葉	ESD 地域ミーティング (地域支援プロジェクト)	in 土気（千葉市緑区） 主催：緑の環・協議会、ESD-J	49 名
11月 1 日 ～ 2 日	政策	東京	環境省 ESD 促進事業 キックオフミーティング	全国事務局：ESD-J 環境省の ESD 促進事業の開催地 10 カ所が決定。事業のスタートにさいし、各地の担当者が集い、それぞれの課題や目標を共有	46 名
11月 6 日	地域	東京	第 2 回 ESD シナリオづくり プロジェクト	人権教育と自然保護教育の未来志向タイムラインづくり	22 名
11月 19 日	地域	山梨	第 3 回 ESD シナリオづくり プロジェクト	○○教育の歴史や経験を束ね、共有し、ESD につながる「大きなシナリオ」をつくる	25 名
11月 26 日	地域	熊本	ESD 地域ミーティング (地域支援プロジェクト)	in 水俣 主催：熊本ネイチャーゲーム協会、ESD-J	20 名

12月2日	地域	栃木	ESD 地域ミーティング (地域支援プロジェクト) ステップ2	関東広域圏地域ブロックミーティング in 栃木 主催：宇都宮大学陣内研究室 共催： ESD-J	22名
12月7日 ・17日	地域	岡山	ESD 地域ミーティング (地域支援プロジェクト) ステップ2	ESD コーディネーター養成講座を開催 主催：岡山市京山地区 ESD 推進協議会、 共催：ESD-J	各 25名
12月11日	地域	東京	第四回 ESD シナリオづくり プロジェクト開催	ESD の「大きなシナリオ」づくり	14名
12月21日	地域	東京	ESD 地域ミーティング (地域支援プロジェクト) ステップ2	ESD-Hino ワークショップ1を開催 主催：ESD-Hino、共催：ESD-J	15名

2007年

開催日	活動区分	開催地	事業名	内 容	参加人数
1月17日	地域	神奈川	ESD 地域ミーティング (地域支援プロジェクト) ステップ2	関東広域圏地域ブロックミーティング in 神奈川 主催：麻布大学村山研究室、ふちのべ塾 共催：ESD-J	15名
1月20日	地域	石川	ESD 地域ミーティング (地域支援プロジェクト)	in 石川県 主催：持続可能な社会つくりーい しかわ、共催：ESD-J	23名
1月25日	地域	東京	ESD 地域ミーティング (地域支援プロジェクト) ステップ2	ESD-Hino ワークショップ2を開催 主催：ESD-Hino、共催：ESD-J	15名
1月28日	地域	千葉	ESD 地域ミーティング (地域支援プロジェクト) ステップ2	関東広域圏地域ブロックミーティング in 千葉 主催：ESD ちばミーティング実行委員会 共 催：ESD-J	10名
2月1日	地域	東京	第五回 ESD シナリオづくり プロジェクト開催	ESD を実践する「小さなシナリオ」をつくる ワークショップ開催	16名
2月3日 ～4日	地域	岡山	ESD 地域ミーティング (地域支援プロジェクト) ステップ2	ESD フェスティバルを開催 主催：岡山市京 山地区 ESD 推進協議会、共催：ESD-J	200名 以上
2月10日	地域	千葉	ESD 地域ミーティング (地域支援プロジェクト)	in 松戸を開催 主催：NPO 法人コミュニティ・ コーディネーターズ・タンク、共催：ESD-J	22名
2月14日	政策	埼玉	ESD 関東セミナー	ESD の実践事例の紹介や地域が活用できる ESD 促進施策を調査し、その結果を紹介	52名
2月15日	政策	東京	環境省 ESD 促進事業 経験交流ミーティング	全国事務局：ESD-J 環境省の ESD 促進事業 の開催地 10 カ所の担当者が集い、検討を続 けてきた事業内容、ESD を推進するときの課 題や工夫を共有	54名
2月18日	地域	大阪	ESD 地域ミーティング (地域支援プロジェクト)	in 貝塚を開催 主催：ESD かいづかネット ワーク準備会、共催：ESD-J	12名
2月24日	地域	岡山	ESD 地域ミーティング (地域支援プロジェクト) ステップ2	ESD・環境教育円卓会議を開催 主催：岡山 県民局・岡山ユネスコ協会、共催：ESD-J	100名
2月25日	地域	福岡	ESD 地域ミーティング (地域支援プロジェクト)	in 久留米を開催 主催：NPO 法人久留米地 球市民ボランティアの会、共催：ESD-J	22名

2月 25 日	地域	鹿児島	ESD 地域ミーティング (地域支援プロジェクト)	in 大野・垂水を開催 主催：鹿児島 ESD 协議会準備会、共催：ESD-J	55 名
3月 10 日	地域	埼玉	ESD 地域ミーティング (地域支援プロジェクト) ステップ 2	関東ブロックミーティングを開催 主催：関東圏持続可能な開発のための教育の 10 年推進ネットワーク (KEN)、共催：ESD-J	18 名
3月 18 日	地域	東京	ESD-J 全国ミーティング	全国から ESD の担い手や ESD に関心を寄せるさまざまな人たちが参加。パネルブース展示に、団体会員 28 団体が出展	130 名
3月 25 日	地域	東京	ESD 地域ミーティング (地域支援プロジェクト) ステップ 2	ESD-Hino シンポジウムを開催 主催 ESD-Hino、共催 ESD-J	30 名

ESD-J の運営・情報共有に関する活動一覧

2006 年

開催日	活動区分	事業名	内 容
4月 16 日	運営	ESD - J 事務所移転	
4月 26 日 ～ 5月 22 日	運営	ESD-J 理事選挙	25 名の立候補者より 15 名を選出。有権者数 186 のうち、投票数 109 (白票 : 1)、有効投票 109 (無効 : 0)、投票率 58.6%
5月 28 日	運営	2006 年度 第 1 回理事会	2005 年度の事業報告と決算、2006 年度の事業計画、2006 年度予算、推薦理事 (5 名) の選出などについて議論
6月 15 日	情報	ESD レポート第 8 号発行	特集「ESD の 10 年日本実施計画、あなたはどう読む?」のほか、環境省の ESD 支援事業の紹介など 発行 : 5,700 部
6月 18 日	運営	2006 年度 通常総会 2006 年度 第 2 回理事会	2005 年度事業・決算について報告。2006 年度事業計画および予算、定款の改定などが承認される。理事会では代表理事、副代表理事の選出、PT 体制の検討を行う
10月 7 日	運営	2006 年度 第 3 回理事会	地域で ESD の実践的な成果をあげることを重点課題とし、その成果を国際的な連携、政策提言へ反映させるという中期戦略のビジョンを議論
11月 15 日	情報	ESD レポート 9 号発行	誌面リニューアル。特集「○○教育からのメッセージ」のほか、「シリーズ学びの場をデザインする」がスタート。発行 : 5,700 部
12月 17 日	運営	2006 年度 第 4 回理事会	今年度事業の見通し、全国ミーティングの企画、来年度事業の方針などについて議論
12月 20 日	情報	ESD テキストブック発行	「わかる! ESD テキストブック シリーズ 1 基本編 未来をつくる『人』を育てよう」を発行。初版 5,000 部印刷

2007年

開催日	活動区分	事業名	内 容
1月 15 日	情報	ESD レポート 10 号発行	特集「私と○○教育 ESD への大きなシナリオを描く」、「地域に学び、地域へ還す 富山高専学生・学校・地域の学びの連鎖」などを掲載。発行：5,700 部
3月 15 日	情報	ESD レポート 11 号発行	特集「分野を超えた共育の芽 ESD への小さなシナリオをつくる」や「暮らしを学びに～山村留学が子どもと村人を自立させる」などを掲載。発行：5,700 部
3月 17 日	運営	2006 年度 第 5 回理事会	2007 年度の事業内容および、予算案について議論

ESD-J の講師派遣先一覧

2006 ~ 2007 年

依頼元	イベント名	開催日	場所	参加者数
環境パートナーシップオフィス	環境教育担当者研修	4月 24 日	東京	30 名
環境省	環境教育担当者研修	4月 25 日	東京	200 名
(社) 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会	消費者環境教育研修	8月 21 日～23 日	千葉	35 名
文部科学省	環境教育指導者養成研修講座	9月 26 日～29 日	福島	55 名
中国自然の友	ESD-China (ESD 中国民間協力ネットワーク) ワークショップ	11月 4 日～6 日	中国・北京	100 名
環境省	環境省環境教育担当者研修	11月 7 日	埼玉	120 名
広島大学付属高等学校	広島大学付属高等学校研究大会	11月 11 日	広島	80 名
東北環境パートナーシップオフィス (東北 EPO)	東北 EPO 設立記念 ESD セミナー	11月 15 日	岩手	25 名
大阪市教育委員会	人権教育担当者研修	11月 28 日	大阪	10 名
文部科学省	環境教育指導者養成研修講座	11月 15 日	広島	58 名
環境省、文部科学省	環境教育リーダー研修 基礎講座	12月 1 日	高知	50 名
ふちのべ塾	ESD をさがみはらで学ぼう	12月 20 日	神奈川	15 名
佐世保市	ESD 講演会	2月 2 日	長崎	40 名
ユネスコ国内委員会	第 120 回日本ユネスコ国内委員会 オープンフォーラム	2月 28 日	東京	120 名
愛媛大学	環境 ESD シンポジウム	3月 11 日～12 日	愛媛	80 名
群馬県・群馬大学	多文化地域のフィールドワーク	2月 15 日	千葉	35 名

ESD-J の共催・協力・後援事業一覧

使用名義	日 程	～迄	場所	事業名	参加者数	主催団体
共 催	6月14日(水)	6月15日(木)	仙台	アジア協力対話第3回環境教育推進対話	約150名	外務省、仙台広域圏RCE
	10月21日(土)		鳥取	日本環境教育学会第18回大会(鳥取)プレミーティング「鳥取で環境教育を語ろう」	26名	日本環境教育学会
	3月21日(水)		鹿児島	かごしまESDフォーラム～ネイチャーゲーム・自然体験活動で子どもがかわる、大人がかわる、地域がかわる!～	84名	かごしまESDフォーラム
協 力	7月14日(月)	7月24日(月)	東京 大阪等 7ヵ所	民衆演劇の手法で考えるESDアジア太平洋交流ワークショップ	のべ 163名	民衆演劇とESDアジア太平洋ネットワーク・日本委員会
	4月21日(金)	12月31日(日)		言の葉さらさらプロジェクト	1368通	言の葉さらさらプロジェクト実行委員会
後 援	4月1日(土)	3月31日(土)	全国 8校	[ずっと地球と生きる]学校プロジェクト(継続)	のべ 532名	(財)日本ユネスコ協会連盟 読売新聞社
	5月20日(土)	5月23日(火)	東京	ヘレナ・ノーバーグ・ホッジ招聘シンポジウム 懐かしい未来へ～ヒマラヤ・ラダックに学ぶ持続可能な社会づくり	のべ 1300名	ヘレナさん招聘実行委員会
	6月24日(土)	6月25日(日)	岡山	中・四国環境教育ミーティング	31名	中・四国環境教育ネットワーク
	8月10日(木)	8月11日(金)	大阪	ESD&多文化教育のための教材作りに挑戦	25名	アジア・太平洋人権情報センター(ヒューライツ大阪)
	8月19日(土)	8月20日(日)	東京	第10回学校と地域の融合教育フォーラム2006 in 東京	132名	学校と地域の融合教育研究会
	10月13日(金)	10月15日(日)	東京 2ヵ所	環境教育シンポジウム『すべての子どもに体験から学ぶ環境教育を』～アメリカにおけるプロジェクト・ワイルドの最先端を学ぶ～	のべ 164名	(財)公園緑地管理財団
	11月3日(金)	11月4日(土)	東京	環境教育指導者養成アースエディケーションワークショップ	22名	NPO当別エコロジカルコミュニティー
	3月7日(水)		大阪	近畿ESDフォーラム	58名	近畿地方環境事務所、近畿環境パートナーシップオフィス
	3月17日(土)	3月18日(日)	京都	Beyond自然教育～ESD and How to teach it	のべ 55名	NPO地球デザインスクール
	3月21日(水)		名古屋	未来をつくる教育と経済～持続可能な社会とは？ESDの可能性～	82名	環境省中部環境パートナーシップオフィス

ESD 関連の記事・論文など

分類	発行月日 ・執筆日	記事・論文名	執筆者 (順不同・敬省略)	掲載誌・提出先	編集	発行
新聞記事	2006年 5月9～26日	手と手と手：岡山発 国際貢献 地域で動く（13回シリーズ）⇒188ページ	国際貢献取材班	山陽新聞	—	山陽新聞社
	2006年 5月17日	手と手と手：岡山発 国際貢献 人類社会維持へ行動！！⇒189ページ	国際貢献取材班	山陽新聞	—	山陽新聞社
	2006年 5月17日	四季録 教育の方向性 ⇒190ページ	竹内よし子	愛媛新聞	—	愛媛新聞社
	2006年 6月24日	四国方式 大学講座で人材育成	国際貢献取材班	山陽新聞	—	山陽新聞社
	2006年 7月16日	ずっと地球と生きる 学校プロジェクト 水は命	—	読売新聞	—	読売新聞社
	2006年 7月17日	ESD推進協結成一国連キャンペーン 実践	清水玲子	山陽新聞	—	山陽新聞社
	2006年 7月28日	ずっと地球と生きる 学校プロジェクト 温暖化知恵で防ぐ ⇒191ページ	—	読売新聞	—	読売新聞社
	2006年 9月5日	「銃を鍼へ」活動支援 循環型社会へ 井戸掘りも	加畠公一郎	朝日新聞	—	朝日新聞社
	2006年 10月14日	デスクノート つなぐ人	清水玲子	山陽新聞	—	山陽新聞社
	2006年 11月23日	持続可能な社会を目指せ アフリカ支援の愛媛 NPO代表 講演で呼び掛け	清水玲子	山陽新聞	—	山陽新聞社
	2006年 11月26日	ずっと地球と生きる 学校プロジェクト 自然との共存、身近に実践	—	読売新聞	—	読売新聞社
	2007年 12月20日	ずっと地球と生きる 学校プロジェクト 「紙」宿る森、守ろう	—	読売新聞	—	読売新聞社
	2007年 2月10日	持続可能な開発のための教育 ⇒192ページ	—	聖教新聞	—	聖教新聞社
	2007年 2月14日	四季録 学びと実践	竹内よし子	愛媛新聞	—	愛媛新聞社
	2007年 2月17日	四季録 ESD	竹内よし子	愛媛新聞	—	愛媛新聞社
	2007年 2月17日	ずっと地球と生きる 学校プロジェクト 地球が悲鳴、省エネ誓う	—	読売新聞	—	読売新聞社
	2007年 3月7日	地域と市民の役割—誰もが土の人・風の人	高野孝子	朝日新聞新潟版	—	朝日新聞社
	2007年 3月9日	ずっと地球と生きる 学校プロジェクト 小さな努力、地球守るよ	—	読売新聞	—	読売新聞社
	2007年 3月16日	途上国知り一歩行動 小さくても継続が大切	竹内よし子	愛媛新聞	—	愛媛新聞社
	2007年 3月20日	UNDESD環境教育計画3年目 地域・学校で活動拡大	—	読売新聞	—	読売新聞社
	2007年 3月21日	浦佐裸押合大祭—地元の誇り地域の きずな	高野孝子	朝日新聞新潟版	—	朝日新聞社
雑誌	2006年 4月	ESD-J全国ミーティング エコな世界 をつくるには、教育が大切	—	Earth Guardian	—	日報アイ・ビー
	2006年 9月	e-コミュニケーションQ&A テーマ 「ESD」⇒193ページ	村上千里	Earth Guardian	—	日報アイ・ビー
	2006年 11月	この人に聞く：原明子さん ⇒194～195ページ	美澄岸子 吉川恵子	プラザvol.167	プラザ岡山 編集室	株式会社 オークシード
	2006年 10月	持続可能な「地域づくり」「人づくり」 に向けて—「国連・持続可能な開発のための教育(ESD)の10年」の総合的研究中間報告	阿部治、田中治彦、 佐藤真久、小栗有子、大島順子、降旗信一ほか	農村文化運動 182号	(社)農山漁村 文化協会	(社)農山漁村 文化協会

分類	発行月日 ・執筆日	記事・論文名	執筆者 (順不同・敬省略)	掲載誌・提出先	編集	発行
雑誌	2007年 1月	学生たちが体験したたくさんの「つながり」	高野孝子	行動人	—	ジェック
	2007年 3月	豊かさを求めて	高野孝子	行動人	—	ジェック
	2007年 3月	必要なのは体験しながら学ぶ力～サスティナビリティの実現に向けた教育～	村上千里	環境会議	—	宣伝会議
書籍・報告書	2006年 3月	国連・持続可能な開発のための教育の 10年 2005年度事業報告書 えへやん・ すごいやん・だいじにいこか 泉北	—	—	—	世界人権宣言 泉北3市1町 連絡会
	2006年 4月	2005年度東京学芸大学現代GP 「多摩川エコモーション」報告書	—	—	—	東京学芸大学 「多摩川エコモーション」事務局
	2006年 6月	ズズメの少子化、カラスのいじめ	安西英明	—	ソフトバンク 新書	ソフトバンク クリエイティブ (株)
	2006年 7月	地球、そこが私の仕事場	大前純一	—	—	海象社
	2006年 9月	人権教育テキスト 人権教育を土台に すえた「持続可能な開発のための教 育」(ESD)を三重県から	森 実	—	(財) 反差別・ 人権研究所みえ	三重県
	2006年 10月	地球体験チャレンジ：ヤップ島プロ グラム 2006 報告書	高野孝子ほか	—	NPO 法人 ECOPLUS	NPO 法人 ECOPLUS
	2006年 11月	平和の文化 8つのキーワード	淺川和也ほか	—	平和の文化を きずく会	平和文化
	2006年 12月	わかる！ ESD テキストブック シ リーズ1 基本編 未来をつくる 『人』を育てよう	岩本泰ほか	—	ESD-J	ESD-J
	2007年 1月	持続可能な社会と市民の役割 海外実 習「ミクロネシア連邦ヤップ」	高野孝子ほか	—	NPO 法人 ECOPLUS	早稲田大学オーブ ン教育センター設 置科目「持続可能 な社会と市民の役 割」受講生一同
	2007年 2月	小学校の授業に生きるネイチャ ーゲーム スタート編	(社) 日本ネイ チャーゲーム協 会・体験型環境 教育研究会	—	(社) 日本ネイ チャーゲーム協 会・体験型環境 教育研究会	(株) ネイチャー ゲーム研究所
	2007年 2月	「地域に根ざした教育」を考える～ アラスカ先住民族の自然観をもとに ～ 報告書	—	—	村橋真理	NPO 法人 ECOPLUS
	2007年 2月	ESD 銀河リポート No.1				岩手大学 ESD 推 進委員会
	2007年 3月	ESD 銀河リポート No.2				岩手大学 ESD 推 進委員会
	2007年 3月	持続可能性に向けた教師教育の新た な方向づけ －ガイドライン及び提言－	—	—	国立教育政策研 究所国際研究・ 協力部 監訳	(株) 芳文社
	2007年 3月	人権学習の手引き －ハートバリアフリー宣言	—	—	大阪市教育委員 会	大阪市教育委員 会
	2007年 3月	学校に森をつくろう！－子どもと地 域と地球をつなぐホリスティック教 育－	—	—	日本ホリスティッ ク教育協会、今 井重孝、佐川通	せせらぎ出版
	2007年 3月	未来へのまなざし アジア太平洋 持続 可能な開発のための教育（ESD）の 10年	—	—	株式会社 クバプロ	財団法人 ユネス コ・アジア文化 センター

分類	発行月日 ・執筆日	記事・論文名	執筆者 (順不同・敬省略)	掲載誌・提出先	編集	発行
書籍・報告書	2007年3月	Tales of Hope - Grassroots Activities of Education for Sustainable Development (ESD) in Asia and the Pacific	—	—	Asia/Pacific Cultural Centre for UNESCO (ACCU)	Asia/Pacific Cultural Centre for UNESCO (ACCU)
	2007年3月	It's Our Only PLANET! Education for Sustainable Development through PLANET in Asia and the Pacific	—	—	Asia/Pacific Cultural Centre for UNESCO (ACCU)	Asia/Pacific Cultural Centre for UNESCO (ACCU)
	2007年3月	Inamura no Hi - TSUNAMI RESCUE! The true story of Hamaguchi Goryo The Man Who Saved His Village From a Tsunami	—	—	Asia/Pacific Cultural Centre for UNESCO (ACCU)	Asia/Pacific Cultural Centre for UNESCO (ACCU)
ニュースレターセンター	2006年5月	「国連・持続可能な開発のための教育の10年」にむけて	—	ダッシュレター67号	—	NPO法人 DASH
	2006年7月	「未来をつくる教育」をつくる(3)－持続可能な開発のための教育(ESD)推進の基盤整備－	村上千里	環境教育ニュースレター74号	日本環境教育学会	日本環境教育学会
	2006年7月	実践ESD! in 小豆島	—	わくわくニュースレター	—	NPO法人えひめグローバルネットワーク
	2006年9月	特集「持続可能な開発のための教育の10年」		地球環境基金便り No.23		(独)環境再生保全機構 地球環境基金
	2006年11月	持続可能な開発と大気汚染公害～地域再生にむけたESDの課題	林美帆	国際人権ひろば70号	—	ヒューライツ大阪
	2006年11月	特集・「持続可能な開発と人権－東南アジアの現実から考える」	—			
	2007年1月	「未来をつくる教育」をつくる(4)地域で進めるESD－「ESDとよなか」の取り組みからー	井上和彦	環境教育ニュースレター76号	日本環境教育学会	日本環境教育学会
	2007年3月	ESDの取組み「気づき・学び・実践」	—	わくわくニュースレター	—	NPO法人えひめグローバルネットワーク
	2007年3月	遺伝子組み換え作物からESDを考える	岸上知三	国際人権ひろば72号	—	ヒューライツ大阪
	2007年3月	国連「持続可能な開発のための教育(ESD)」取り組みの強化を。	阿部治	自然保護2007年3/4月号 (No.496)	(財)日本自然保護協会	(財)日本自然保護協会
論文	2007年3月	アラスカ先住民招へいプロジェクト：「地域に根ざした教育」を考える	高野孝子	COLUMNS Vol.3 3/4	—	国際交流基金日米センター
	2006年3月	自然体験学習の思想－experienceの理解を軸に－	降旗信一	人間と社会16号	東京農工大学「人間と社会」研究会	東京農工大学
	2006年4月	地域とつながる環境ボランティア	高野孝子	環境ボランティア	岩井雪乃	WAVOC
	2006年4月	1. キャンプにおける環境教育の進め方、2. キャンプにおける環境教育の進め方の実際	高野孝子	キャンプディレクター必携	(社)日本キャンプ協会指導者養成委員会	(社)日本キャンプ協会
	2006年8月	英国・エジンバラの暮らしと環境政策	高野孝子	早稲田大学学報1160号	早稲田大学報編集室	早稲田大学校友会
	2006年9月	「持続可能な開発のための教育の10年」を視野に入れた森林体験学習による環境教育について	関隆晴、三嶋宏、中辻清泰、生田享介、石川聰子、岡崎純子、野田文子、森実	大阪教育大学紀要第V部門 第55巻1号	大阪教育大学	大阪教育大学
	2007年3月	学習で見つけた「持続可能性」へのヒント	高野孝子	オープン教育センターの授業	—	早稲田大学

ESD 関連の記事 (抜粋)



岡山発 国際貢献

二日間で十二時間超えた。

サミット

「ESD」はまだはじめの
会議は英語をベースに同時
通訳で進み、「持続可能な社
会を築くために」、じょうづ
いが飛び交った。

イタリアのフィレンツェ大
学教授パオロ・オリフィスは
こう続けた。「大事なのは地
球規模のヒューマニズム、つ
まり多様な文化と民族の人権
を尊重する人間性。この人間
性を持つ人を育てる戦略が必
要なのだ」

昨年十月、岡山県国際交流
センター（岡山市泰選町）で開
かれた国際会議のテーマは
「持続可能な開発のための教
育」（ESD=Education
for Sustainable De
velopment）。

拠点化



国際会議で ESD の活動を発表す
る岡山市の中高生ら＝昨年10月

ESD 先進地の責任

説教しないで行動せよ

担当しあしました。

第6部
担当しあしました。
清水玲子

第6部 地域で動く ①

ご意見をお寄せください。〒700-8734、山陽新聞
「国際貢献取材班」。ファックス(086-245-5296)、
メール(kokusai@sanyo.oni.co.jp)。

実践段階

ESD は、持続可能な社会

を目標とする教育活動であり、環

境や平和、福祉など幅広い。

岡山では環境や国際理解をめ

ぐる活動が地域や NGO によ

って始まり、先進地として実

践段階に入っている。

サミットを引き続いで毎

年、ESD の国際会議を主催

する COINN の理事長・青

山歟(べき)は「世界のローカル

NGO をつくりてきた責任

があると思う」と語る。岡山

大学で有害化学物質の生態系

への影響を研究。「環境問題

の解決には市民運動が不可

欠」との思いから、NGO に

も参加している。

「岡山は、今まで以上に責

任感を持って ESD を実行し

ていく必要がある。世界の期

待を担っている」（敬称略）

第6部 地域で動く ⑬

2006年5月9～26日（13回シリーズ）

山陽新聞

2006年5月17日 愛媛新聞

2006年7月28日 読売新聞⇒
(2005年8月よりシリーズ)

The image contains several panels of text and diagrams from a newspaper. At the top, there's a banner with the date '2007年(平成19年)2月10日(土曜日)' and page number '5版 (6)'. Below it, a large vertical headline on the right reads '持続可能な開発のための教育' (Education for Sustainable Development). To its left, another section discusses '行動は足元から' (Action starts from the ground up). The central part of the image features a diagram of overlapping circles representing 'ESD' (Education for Sustainable Development) concepts like gender education, peace education, human rights education, environmental education, multicultural education, and welfare education. Another diagram shows various educational institutions and organizations like schools, universities, NGOs, and local governments connected through a 'コーディネーター' (Coordinator). A small inset image shows children playing. The bottom left corner contains a date '2007年2月10日' and the word '聖教新聞' (Seikyo Shinbun).

2007年2月10日 聖教新聞

でに各地で様々な事例が実践、報道されている。

例えば、岡山市のある地区では、いくら掃除してもなかなかいい下流の河川へみ問題を発端に学習活動を始めた。「水流はこうなっているのか」と調べると、水も水辺もきれいで、川が暮らしの中へ活かされていたこと

るまでになつてゐる。
地域の取り組みが世界とうながした事例として愛媛県松山市の「放棄自転車からみえる自分・地域」(世田のつながり)がある。アフリカ粉塵地での武装解除のため、松山市内に放置自転車を送り、武器回収に役立てた。この活動を通し、身近な地域

域で、ついにやがて、この活動は農業落全體がかわるべく、めをつくり、地域経済・社会の発展に結びついた。ます、様々な立場の人たちが集まり、持続可能な地域づくりでつながることやったことを話しあつて、そこから「未来へぐり」が始まると訴えている。

Question
纂集中

読者のみなさんからの疑問・質問・相談を募集しています。聞いてみたいことがありますたら、下記のメールアドレスまでメールをお寄せください。
FAXでも喜んでお受けします。

「E-コミュニケーションQ&A」係
E-mail : eg@nippo-lb.jp
FAX : 03-5214-6633

2006 年 9 月 Earth Guardian

2006年11月 プラザVOL.167

21世紀岡山の100人

大切なのは、まず『知る』こと。そして、いろんな立場の人が『手を繋ぎ行動を変える』こと。そこから未来が変わっていく。



——岡山は「ESD」に関する地域の
拠点に認定されているのですか?
が、どうしてなんですか?

「岡山は以前から市民の自主的な環境作り活動が盛んなところだんだってですね。町内会やボランティアイクループが、山とか、川や児島湖や公園など不法投棄されたごみをきれいに整備したりといいます。それで岡山では2001年から「環境パートナーシップ事業」という環境保全活動をしている団体を繋ぐといふ事業を始めたんです。その事業では、交流会を開催したり、「ニースレスター」という誌面で様々な団体の活動を紹介したりするんですが、それで3万人以上も事業を始めたんです。その事業では、人が参加すると、うなぎを出したんだよね。そこでその実績をもとに、「岡山世界でもいろいろやり方でやりますか?」と世界に提案して。それが認められたというわけなんです。それ以外にも岡山は国際交流団体とか、国際協力団体がすごく多くいるところということもありまして、公民館活動での生涯学習が盛りもある。そういうことが素地にあって昭山が国連大学から「ESD」に関する地域の拠点として認定されたんですね

―― ESDの特徴とは、
「だいたい何でもそうですが、みんな
縦割りでしよう？ 自分のことで手一杯
で他の団体が何をやっているかも知らな
い、一緒に手を繋いで何かをやろうとい
う余裕もない、結局自分のところだけに
終わつてしまっているんですね。でも、そ
れじゃあ結局地球の問題は解決できない
でしょう？ 「他の国のことには知らん」じゃ
ダメだし、その国の人人が何で困っている
のかということをみんなで知恵を出し合
って協力して解決していくしかないといけな
い。だから、ESDは非常にみんなの協
力が求められる仕事です。

日本など先進国がたくさん出す二酸
化炭素が温暖化や気候変動の原因と
なって地球上の貧しい人を苦しめている。
目に見えないけれどそういうことを認識
して行動を変えないかないといけないので
とても多面的な教育活動だと思います。
単に頭で理解しただけでは本当にわから
たとはいえないですよね。でも私たちが行
動を変えていかないと未来は変わらない
かないんです。そういう意味でも、「実際
の活動を通してまた新しい学びを作って
いく」ということが求められている教育で

大切な人とのつなかり

「この写真展は、オリンパス社が企画制作したもので、2002年のある1日アフリカ大陸53カ国に世界的に著名な1000人の写真家が散らばって人々の暮らしや自然や文化を撮影したものです。そこには豊かな自然と人々の暮らしそして厳しい状況の中でも努力しているアフリカの人々の姿がとらえられています。」

「アフリカに関する情報は日本ではなく、とても限られているので、アフリカのことが少ないと感じます。アフリカに限らず、私たちの茶の間の話題になりますことは少ないのですよ。アフリカに限らず、どこで何が起きても、表面的には私たちの毎日はどうえす同じように過ぎていくかもしれません。でも、気候変動でたびたび干ばつが起きると、多くの人々が農地や牧草地などの生活手段を失い食べていけなくなったり、仕事を求めて都市に出ていくけれど、たいていの場合スマラド貧しい暮らしを余儀なくされます。そうすると、衛生状態が悪く、いつも病気の危険にさらされながら暮らしかねない。本来の生活の場を捨てなければならなかつたのは彼らのせい

でしようか？私たちのく
関係なのでしょうか？つま
えないだけなのではないで
す。
だから、まずは「もつと
貧困や紛争といったネガ
ティブのアフリカではなく、
カとそこへ暮らす人々の次
この写真展の開催にあ
本三セラ協会岡山県支部
でなく、大変多くの組織
ティアの人々が力を合わ
れは、同じ地球にすむ人
よい社会をつくりたいな
あおうという目的に賛同
たくさんいるということとな
ります。
今までの経済発展を優
は、効率の悪いことは切り
ありますね。そういつた
て、お互いのために何かでき
たことをもう一度考え直
になるといなあと思うで
ら、これからいろんな人と
とで、世界規模でのものを考
か、様々な問題を身近にこ
ようにしていきたいですね

――今後の抱負をお聞かせ下さい。
「E-SDSは国連が10年のキヤーン・ベンチマークとして力を入れている組みで、最初に拠点として世界で7カ所が認定されましたね。で、その一つが岡山でして『去る年4月に始まつばかりの新しい取り組みなんです。でも、お動きは、これから10年かけてあらゆる人々に広げていかなさい』といいたけな。そうしないと、私たちの子どもや孫の世代には地球がどうなさいわかるかわからない。今の社会は、どこかで全部つながっているんだから。そのためにも、岡山は「トップランナー」として市民団体、事業者、学校、メディア…といろんな人がつながりながら、活動の輪を広げていきたいと思っています」

取材／フリーザ編集室・美濃岸

岡山市環境局環境保全課主事

原明子さん

2005年4月、岡山に「岡山ESD推進協議会」が発足し、同時に「岡山ESDプロジェクト」がスタートした。まだ未知の、いわばチャレンジともいえるこのESDの担当職員として、昨年9月原明子さんが着任した。「岡山から世界につながることで、新しい何かを生み出せるはず」—その信念を胸に、さらなる原さんの新しい人生が動き始めた。

— 東京生まれの岡山育ち
東京生まれは東京ですね。
されなんでしょうね。
「いいえ。そう言われるお恥ずかしい限りです(笑)。ただ、根が素直だったのか、中学校までは授業だけはよそ見しないで聞いていました。でも基本的に長女でのんびりしてて、高校でもあまり勉強しなかったので、初年度は受けた大学を全部落ち浪人しました。大学も何かの志があつたわけではなく、親がカッコいいぞというのでボート部に入りましたが、そこは入ってみると男ばかり150人の世界でした! 3ヶ月間授業中は寝放課後過酷な練習に耐えましたが、勉強はもうわからないってし、やりたいことも見つかって、ラフラフしていました。

実際東大に行くと、頭もよくて勉強もいつの間にかしっかりしている人がいっぱいいました。で、結局私は、「勉強があり好きではないなあ」ということをよく思はれられたという感じ(笑)。「勉強には向かない、学者にはなれない」とつくづく思いました。

誰かの役に立ちたい!

— 就職活動の時期に入つても、大企業



原明子氏 プロフィール

HARA MEIKO

1962年 東京生まれ

1963年 岡山市に移る

1968年 東京大学文学部国文系専修課程卒業

京都市の料亭業者で商品開発担当

1991年 日本ユニセフ協会勤務

日本ユニセフ協会岡山支店の運営委員会

といひ方への出前講座等を通して啓発に

努める

2004年 総合セフ協会岡山支店事務局長に就任

岡山市役所の持続可能な開発のための教

育(ESD)担当職員に就き、現在に至る

ユニセフからESDへ

—なぜ、ESDの活動に?

「ボランティアや市民活動はやりがいがある楽しいのですが、それだけではやっていけないですよね。どうやつたらやりたいこと食べていけるかというのが今も私の課題なのですが、そんなとき偶然、市役所が発行している『市民のひろば』の求人欄に「ESD担当職員募集」というのを見つけたんです。そもそも、ESDというのは「持続可能な開発のための教育」という意味で行き過ぎた開発のためにどんどん地球温暖化が進んだり、開発のために貧しい人々が苦しんだりしているということを見直して、将来人々が自然環境などと共に生きる持続可能な社会を達成するための教育なんんですけど…」

自身ESDがそういうものだとは知っていましたが、環境に関する専門性ということでは全く自信がなかったのです。が、とりあえずダメもとで応募してみたんでよ。そうしたら、ありがたいことに受かっちゃつて、去年の9月からこの仕事をするようにならうたわけです」

お金を作るとかではなくて、誰かのお役に立つていると実感できることがうれしかったんですね」

—ユニセフの活動もその頃から?
「はい。たまたま新聞の求人欄で(毎日)本ユニセフ協会が職員を募集しているのを見つけて。「これは!」と思って応募して行つてみました。50人ぐらい来ていましたが何と男ばかり! しかも、みんな仕事ができそうなスマーツ姿…。試験と面接を受けたものの半分諦め気分だったんですけど、2人採用のうちひとりを選ばれました。聞いたら、求人は「男子採用の欄」にあつたとして…どうりで男性ばかりのはずですよね(笑)。本当におっちょこ

26

事なんですが、このハガキを書くこと誰かの役に立つんだ」と感じられてすぐくわしくて、「ああ、こういう仕事が好きなんだ!」と思つたんです。

岡山県支部は全員ボランティアで、ユ

2005年度決算報告書 (2005年4月1日～2006年3月31日)

収支計算書 2005年4月1日～2006年3月31日

単位：円

Ⅰ 収入の部	2005年度実績	2005年度予算	実績－予算
1 会費収入	2,719,000	3,200,000	-481,000
正会員会費収入 (200口)	2,020,000	2,000,000	20,000
準会員会費収入 (150人)	399,000	450,000	-51,000
賛助会員会費収入 (15口)	300,000	750,000	-450,000
2 事業収入	12,925,912	12,100,000	825,912
書籍販売等	118,780	800,000	-681,220
環境省	5,250,000	5,000,000	250,000
環境NGOと市民の集い	5,690,000	5,000,000	690,000
博覧会協会	1,339,132	1,300,000	39,132
岡山市ESD研修	200,000	0	200,000
全国ミーティング会費	256,000	0	256,000
国際シンポ会費	72,000	0	72,000
3 補助金等収入	11,478,000	14,279,000	-2,801,000
地球環境基金収入	8,500,000	8,501,000	-1,000
国際交流基金	1,978,000	1,978,000	0
その他助成金	0	2,000,000	-2,000,000
協賛金収入 (キックオフブック)	1,000,000	1,800,000	-800,000
4 寄付金収入	746,610	600,000	146,610
寄付金収入	746,610	600,000	146,610
5 雑収入	51	0	51
受取利息	51	0	51
6 借入金収入	200,000	7,000,000	-6,800,000
短期借入金収入	200,000	7,000,000	-6,800,000
7 その他の収入	646,986	0	646,986
活動報告書頒布	170,600	0	170,600
雑収入	451,386	0	451,386
棚卸資産売却収入	25,000	0	25,000
当期収入合計 (A)	28,716,559	37,179,000	
前期繰越収支差額	5,762,509	5,762,509	
前期繰越収支差額調整額	0		
収入合計 (B)	34,479,068	42,941,509	

Ⅱ 支出の部	2005年度実績	2005年度予算	実績－予算
1 事業費*	24,891,053	21,637,000	3,254,053
情報提供事業	5,219,742	5,224,000	-4,258
研修・普及啓発事業	1,922,147	850,000	1,072,147
政策提言事業	6,508,787	3,925,000	2,583,787
地域ネットワーク事業	3,205,000	4,910,000	-1,705,000
国際ネットワーク事業	2,704,067	2,728,000	-23,933
その他事業	5,331,310	4,000,000	1,331,310
2 管理費	5,220,288	10,177,500	-4,957,212
人件費	3,033,179	7,080,000	-4,046,821
会議費	14,041	60,000	-45,959
交際費	3,570	0	3,570
都内旅費交通費	491,627	480,000	11,627
理事会等旅費交通費	0	1,200,000	-1,200,000
通信運搬費	598,744	700,000	-101,256
消耗什器備品費	185,200	100,000	85,200
消耗品費	210,847	200,000	10,847
賃借料	240,000	240,000	0
保険料	41,500	10,000	31,500
支払手数料	55,876	50,000	5,876
租税公課	19,204	5,000	14,204
支払利息	0	52,500	-52,500
税理士報酬	315,000	0	315,000
雑費	11,500	0	11,500
3 固定資産取得支出	0	0	0
什器備品購入支出	0	0	0
4 借入金返済支出	500,000	7,000,000	-6,500,000
短期借入金返済支出	500,000	7,000,000	-6,500,000
5 その他の支出	0	1,000,000	-1,000,000
予備費	0	1,000,000	-1,000,000
当期支出合計 (C)	30,611,341	39,814,500	
当期収支差額 (A) - (C)	-1,894,782	-2,635,500	
次期繰越収支差額 (B) - (C)	3,867,727	3,127,009	

* うち、事業人件費 4,432,921円

・今期の決算より、人件費を事業費と管理費に分けて報告することとした(予算はすべての人件費が管理費として計上されている)。

・収支は赤字となっているが、これは小冊子作成のための助成金 220万円が昨年の収入となっているためである。

貸借対照表 平成 18 年 3 月 31 日現在

単位：円

科 目	金 額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金	65,894		
普通預金	8,419,704		
未収会費	283,000		
未収金	9,310,000		
当座資産（資金）計		18,078,598	
たな卸資産	229,308	229,308	
2 有形固定資産			
什器備品	100,675	100,675	
3 その他固定資産			
出資金	45,000	45,000	
資産合計			18,453,581
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	5,139,079		
前受金	9,006,412		
預り金	65,380		
資金計		14,210,871	
短期借入金	1,300,000	1,300,000	
負債合計			15,510,871
III 正味財産の部			
正味財産			2,942,710
(うち当期正味財産増加額)			-1,441,684
負債及び正味財産合計			18,453,581

財産目録 平成 18 年 3 月 31 日現在

単位：円

科 目	金 額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金			
現金手元有高	65,894		
普通預金			
三菱東京 UFJ 銀行新宿通支店	6,121,174		
郵便振替口座 新宿明治通支店	2,255,610		
郵便振替口座 広尾支店	42,920		
現金過不足			
未収会費			
正会員	220,000		
準会員	63,000		
賛助会員	0		
未収金	9,310,000		
棚卸資産			
期末棚卸高（書籍在庫）	229,308		
流動資産合計		18,307,906	
2 有形固定資産			
パソコン	100,675	100,675	
3 その他固定資産			
未来バンク出資金	45,000	45,000	
資産合計			18,453,581
II 負債の部			
1 流動負債			
未払金	5,139,079		
前受金	9,006,412		
預り金			
源泉所得税	65,380		
短期借入金	1,300,000		
流動負債合計		15,510,871	
負債合計			15,510,871
正味財産			2,942,710

ESD-J 2006 年度事業計画

<2006年4月1日～2007年3月31日>

I. 方針

ESD-J は、政府・地方自治体・企業・教育関連機関に対して対等な立場で政策提言および協働・連携による活動を行うことにより、持続可能な社会の実現に向けた教育（ESD）の推進に寄与することを目的として設立された、NGO・NPO・個人によるネットワーク組織である。ESD の内容に関しては、環境教育や開発教育、人権教育、平和教育など、これまで多くのノウハウが蓄積されてきているが、ESD はこれらの教育活動がより有機的につながりながら、さまざまな学びの場に広がり、持続可能な地域づくり、社会づくりに発展していくことで実現できるだろう。そしてそのためには、国際レベルおよび国レベル、地域レベルで、人と人をつなぎ、活動と学びをつなぎ、実践と制度をつないでいく「しくみづくり」が重要である。ESD-J は「ESD の 10 年」で、そのしくみをさまざまな関係者とともに模索し、実現することをめざしている。

設立年である 2003 年度から 2005 年度にかけての三年間は、ESD を推進するための基盤整備を行う期間と位置づけ、民間レベルでの ESD に関する情報発信の基盤と、国内外の担い手のネットワーク構築に取り組んできた。また、政府に対しては ESD 推進体制の構築と実施計画の策定に関する政策提言を行ってきた。一方政府レベルでも 2005 年度までは準備段階であったといえる。2006 年 3 月に「わが国における ESD の 10 年実施計画」が確定し、今後行政機関・自治体などに ESD の認知・認識が高まることが期待できるようになった。このような背景から、2006 年度は官民双方において ESD の 10 年の実質的なスタートの年となる。

ESD-J は 2006 年からの 3 年間を、国および地域レベルの「ESD 推進に必要な支援を提供できるしくみ」を模索し、そのビジョンを形成するための期間とし、国際的視点を踏まえつつ以下の方針で事業に取り組む。

- ① 政府による国内実施計画の実効性を担保するために各ステークホルダーと連携しながら、よりよい国レベルの推進体制を提案・創造する。
- ② 地域の先進事例からの学びを通じて、「ESD を推進する地域のしくみ」のモデルを地域とともに模索・創造する。
- ③ 地域の取組み段階に応じた支援メニューを開発・提供しつつ、全国レベルでの「ESD 推進のしくみ」を提案し実現に努める。
- ④ 「ESD を推進するしくみ」に必要な人材の養成に取り組む
- ⑤ 教育の担い手に対し、ESD への理解を広める
- ⑥ ESD の推進につながるあらゆる事業を、さまざまなテーマで活動する NPO をはじめ、行政・企業・教育機関など、多様な主体との対話や協働をとおして実施する

またこれらの活動を支えるため、事務所スペースの確保、スタッフ体制の充実など、事務局の強化をすすめていく。

II. 事業の内容

*以下は事業ごとに区分したものであり、プロジェクトチーム区分に対応するものではない

★は新規事業

1. 地域ネットワークの形成および交流支援事業

地域のESDの担い手をネットワークすることを目的に、2003年から全国47都道府県での地域ミーティング開催をめざし、これまで27都道府県32地域で実施してきた。2006年度は引き続き未開催地に対し「ESD地域ミーティング」の開催を積極的に働きかけるとともに、既開催地の次のステップを支援する枠組みをつくる。

また、さまざまなテーマで教育活動に取り組んでいるNPOとの協働で、すでにある教育活動をESD的に発展させていくためのシナリオづくりに取組み、シナリオ集を発行する。

1) 地域のESDサポート事業

- ・第一ステップ=地域ミーティングの開催支援(公募)
- ・第二ステップ=「ESD推進のしくみづくり」につながる企画の支援(公募)

2) 地域の実践交流セミナー(全国ミーティング)の開催

3) ESD実践シナリオの作成★

2. 政策提言および調査研究事業

「わが国におけるESDの10年実施計画」はESD推進の方向性は示しているものの、具体的な達成目標やそのための実施体制などの検討がなされていない。また、政府の事業のほとんどが現行事業の読み替えであり、ESDの10年を必ずしも反映していない。とくに重要な評価・モニタリングについては中間に向けた評価指標も示していない。これらを官民協働でつくっていくための推進体制を提案していくと同時に、さまざまな主体とともに「官民協働によるESDを推進するしくみ」のビジョンづくりに取り組む。また、環境省のESDモデル事業に参画し、よい事例づくりの支援に取り組むことをとおして、全国事務局として必要な機能を整えていく。さらに、各省庁のESD関連事業推進のための政策提言や、自治体などのESDの10年推進実施計画の策定支援にも取り組む。

1) 「官民協働によるESDを推進するしくみ」のビジョンづくり

- ・政府や企業などとの「ESD対話ミーティング」の実施
- ・各省庁のESD関連事業推進のための政策提言

2) 環境省ESDモデル事業(全国事務局)★

3) 自治体などのESDの10年推進実施計画の策定を支援する★

3. 研修および普及啓発事業

ESDの認知度を高めるため、さまざまな機関や主体とともに、ESDのセミナーや勉強会などを開催する。また要請に応じて前講座を実施するとともに、ESDコーディネーターの養成研修の開発と実施に取り組む。

- 1) 関係機関や企業などとの共催によるセミナーの開催
- 2) 出前講座・研修・ワークショップの開催
- 3) ESD コーディネーター養成研修の開発・実施 ★

4. 情報収集・提供および出版事業

行政機関・自治体をはじめ、さまざまな主体に ESD が紹介されていくさいに、ESD-J などが行ってきたこれまでの議論が反映された情報・考え方が広がるよう、これまで作成してきた媒体を活用しつつ、さらなる情報発信に努める。また、情報発信の担い手が活用しやすいテキスト作成に取り組む。

- 1) 日英ウェブサイトの充実
- 2) 「ESD レポート」の継続発行
季刊、A4 版、8 ページ、各 6000 部
- 3) ESD ブックレット「ESD-J2006 活動報告書」の発行
地域実践シナリオ作成事業での成果を中心に作成する
- 4) 「ESD の 10 年」研修用テキストブックの制作・販売 ★
A5 版、48 ページ、2000 冊、販売予定価格 500 円
- 5) ESD 関連書籍の販売

5. 国際ネットワーク推進事業

国際ネットワークプロジェクトチームとしての運営体制の基礎整備をしてきた 3 カ年の活動をもとに、パートナーとなる / なる相手の国（団体）がみえてきたことをふまえ、2006 年度は実践期の 1 年目として動いていく。具体的には、アジア各国の ESD 実践の情報と事例の収集と共有をすすめつつ、アジアをベースとしたネットワークづくりの構築と実践への足がかりを積みあげていく。

- 1) アジア ESD 推進事業 ★
アジア地域における ESD 事例共同調査と 6 カ国語ウェブサイトの立ちあげ
- 2) ESD-AP 設立支援 ★
- 3) 海外の動きを国内へ、国内の動きを海外へ発信する

6. その他の事業

- 1) 地球環境基金「環境 NGO と市民の集い」
学生・教育機関・団塊世代との連携をテーマに秋に 3 回実施予定。各回、学生の環境 NGO やボランティアサポートに取り組む団体との協働で行う。

III. 実施体制

1. 役員等

<理事>

代表理事 阿部治

副代表理事 池田満之、重政子、竹内よし子

理事 浅川和也、伊藤通子、岩崎裕保、大島順子、大前純一、清水悟、新海洋子、
枚本育生、関口悦子、世古一穂、辻英之、降旗信一、前川実、宮崎稔、森良、
山本幹彦

<監事>

浅見哲、吉岡睦子

<顧問>

池田香代子、岡島成行、廣野良吉、坂本尚、CW ニコル、松浦晃一郎、水野憲一、三隅佳子

2. 事業実施体制

地域ネットワークの形成および交流支援事業 地域ネットワーク PT (リーダー: 森良)
政策提言および調査研究事業 政策提言 PT (リーダー: 池田満之)
研修および普及啓発事業 研修事業 PT (リーダー: 世古一穂)
情報収集・提供および出版事業 情報共有 PT (リーダー: 清水悟)
国際ネットワーク推進事業 国際ネットワーク PT (リーダー: 大島順子)
その他の事業 事務局

3. 組織基盤強化担当

広報 PT (リーダー: 大前純一)

財政基盤強化 PT (リーダー: 重政子)

4. 事務局

事務局長: 村上千里

スタッフ (常勤) 佐々木雅一

(非常勤) 野口扶弥子、渡辺いずみ、二宮リムさち

2006 年度予算 (2006 年 4 月 1 日～2007 年 3 月 31 日)

I 収入の部	2006 予算	2005 実績	差異
1 会費収入	3,240,000	2,719,000	521,000
正会員 会費収入 (220 口)	2,200,000	2,020,000	180,000
準会員 会費収入 (180 人)	540,000	399,000	141,000
賛助会員 会費収入 (10 口)	500,000	300,000	200,000
2 事業収入	19,000,000	12,925,912	6,074,088
書籍販売等	200,000	118,780	81,220
環境省	12,000,000	5,250,000	6,750,000
環境 NGO と市民の集い	5,500,000	5,690,000	-190,000
研修収入	1,000,000	200,000	800,000
イベント収入	300,000	328,000	-28,000
その他事業		1,339,132	-1,339,132
3 助成金等収入	16,812,412	11,478,000	5,334,412
地球環境基金収入	8,000,000	8,500,000	-500,000
その他助成金		1,978,000	-1,978,000
松下マッチング基金	1,000,000		1,000,000
トヨタ G500 環境基金	7,812,412		7,812,412
協賛金収入	0	1,000,000	-1,000,000
4 寄付金収入	700,000	746,610	-46,610
寄付金収入	700,000	746,610	-46,610
5 雑収入	0	51	-51
受取利息	0	51	-51
6 借入金収入	8,000,000	200,000	7,800,000
短期借入金収入	8,000,000	200,000	7,800,000
7 その他の収入	350,000	646,986	-296,986
活動報告書・テキスト頒布	350,000	170,600	179,400
雑収入	0	451,386	-451,386
棚卸資産売却収入		25,000	
当期収入合計 (A)	48,102,412	28,716,559	19,385,853
前期繰越収支差額	3,895,227	5,762,509	
前期繰越収支差額調整額	0	0	
収入合計 (B)	51,997,639	34,479,068	

II 支出の部	2006 年度予算	2005 実績	差異
1 事業費*	30,630,000	24,891,053	5,738,947
情報提供事業	3,820,000	5219742	
研修・普及啓発事業	1,020,000	1922147	
政策提言事業	8,820,000	6508787	
地域ネットワーク事業	5,090,000	3205000	
国際ネットワーク事業	6,400,000	2704067	
その他事業	5,480,000	5331310	
2 管理費	9,110,000	5,220,288	3,889,712
人件費	3,400,000	3033179	366,821
保険料	950,000	41500	908,500
理事報酬	120,000		120,000
会議費	30,000	14041	15,959
交際費	0	3570	-3,570
都内旅費交通費	600,000	491627	108,373
理事会等旅費交通費	100,000	0	100,000
通信運搬費	700,000	598744	101,256
消耗什器備品費	100,000	185200	-85,200
消耗品費	200,000	210847	-10,847
賃借料	1,250,000	240000	1,010,000
支払手数料	300,000	55876	244,124
租税公課	800,000	19204	780,796
支払利息	100,000	0	100,000
税理士報酬	460,000	315000	145,000
雑費		11500	-11,500
3 固定資産取得支出	0	0	0
什器備品購入支出	0	0	0
4 借入金返済支出	1,500,000	500,000	1,000,000
短期借入金返済支出	1,500,000	500,000	1,000,000
5 その他の支出	300,000	0	300,000
予備費	300,000	0	300,000
当期支出合計 (C)	41,540,000	30,611,341	10,928,659
当期収支差額 (A) - (C)	6,562,412	-1,894,782	
次期繰越収支差額 (B) - (C)	10,457,639	3,867,727	

* うち、事業人件費 5,280,000 円

役員・顧問等名簿

代表理事	阿部 治	社団法人 日本環境教育フォーラム
副代表理事	池田 満之	岡山ユネスコ協会
	重 政子	特定非営利活動法人 自然体験活動推進協議会
	竹内 よし子	特定非営利活動法人 えひめグローバルネットワーク
理 事	淺川 和也	ハーグ平和アピール平和教育地球キャンペーン
	伊藤 通子	特定非営利活動法人 エコテクノロジー研究会
	岩崎 裕保	帝塚山学院大学国際理解研究所
	大島 順子	社団法人 日本ネイチャーゲーム協会
	大前 純一	特定非営利活動法人 ECOPLUS
	清水 悟	社団法人 農山漁村文化協会
	新海 洋子	エコプラットフォーム東海
	枚本 育生	特定非営利活動法人 環境市民
	関口 悅子	地球環境・女性連絡会
	世古 一穂	特定非営利活動法人 NPO 研修・情報センター
	辻 英之	特定非営利活動法人 グリーンウッド自然体験教育センター
	降旗 信一	
	前川 実	財団法人 アジア・太平洋人権情報センター
	宮崎 稔	習志野市立鷺沼小学校 / 学校と地域の融合教育研究会
	森 良	特定非営利活動法人 エコ・コミュニケーションセンター
	山本 幹彦	特定非営利活動法人 当別エコロジカルコミュニティー
監 事	浅見 哲	税理士浅見哲事務所
	吉岡 瞳子	吉岡瞳子法律事務所
顧 問	池田 香代子	ドイツ文学翻訳家・口承文芸研究家
	岡島 成行	社団法人 日本環境教育フォーラム 理事長
	坂本 尚	社団法人 農山漁村文化協会 専務理事
	CW ニコル	作家
	廣野 良吉	成蹊大学名誉教授
	松浦 晃一郎	国連教育科学文化機関（UNESCO）事務局長
	三隅 佳子	財団法人 アジア女性交流・研究フォーラム 理事長
	水野 憲一	TVE ジャパン
事務局長	村上 千里	

※ 現役員の任期は、2008年6月の総会までです
 ※ 顧問および事務局長は役員ではありません

団体正会員一覧

(2007年3月31日現在 計94団体)

- (財) アジア女性交流・研究フォーラム
(財) アジア・太平洋人権情報センター(ヒューライツ大阪)
(財) オイスカ
(財) キープ協会
(財) 京都ユースホステル協会
(財) 日本環境協会
(財) 日本自然保護協会
(財) 日本野鳥の会
(財) 日本ユニセフ協会
(財) 日本YMCA同盟
(財) ボーイスカウト日本連盟
(財) ユネスコ・アジア文化センター
(社) ガールスカウト日本連盟
(社) 日本環境教育フォーラム
(社) 日本ネイチャーゲーム協会
(社) 日本ユネスコ協会連盟
(社) 農山漁村文化協会
(社) 部落解放・人権研究所
学校法人 日本自然環境専門学校
国立大学法人 岩手大学
国立大学法人 筑波大学 農林技術センター
国立大学法人 北海道大学
NPO 法人 いきいき小豆島
NPO 法人 岩木山自然学校
NPO 法人 エコ・コミュニケーションセンター (ECOM)
NPO 法人 ECOPLUS
NPO 法人 NPO 研修・情報センター
NPO 法人 えひめグローバルネットワーク
NPO 法人 オーシャンファミリー海洋自然体験センター
NPO 法人 開発教育協会
NPO 法人 環境市民
NPO 法人 環境文化のための対話研究所
NPO 法人 環境まちづくりネット
NPO 法人 キーパーソン21
NPO 法人 くすの木自然館
NPO 法人 国頭ツーリズム協会
NPO 法人 グリーンウッド自然体験教育センター
NPO 法人 久留米地球市民ボランティアの会
NPO 法人 国際自然大学校
NPO 法人 コミネット協会
NPO 法人 サイカチネイチャークラブ
NPO 法人 しづおか環境教育研究会 (エコエデュ)
NPO 法人 自然育児友の会
NPO 法人 自然体験活動推進協議会
NPO 法人 持続可能な社会をつくる元気ネット
NPO 法人 白神自然学校一ツ森校
NPO 法人 ダッシュ
- NPO 法人 生態教育センター
NPO 法人 タブララサ
NPO 法人 地球環境と大気汚染を考える全国市民会議 (CASA)
NPO 法人 地球と未来の環境基金
NPO 法人 当別エコロジカルコミュニティー
NPO 法人 奈良県民環境ネットワーク
NPO 法人 ほっとねっと
NPO 法人 ボランティア・市民活動学習推進センターいたばし
NPO 法人 やまぼうし自然学校
NPO 法人 ADP 委員会
アースビジョン組織委員会
ESDin 三重
ESD 未来教育研究会
エコテクノロジー研究会
エコプラットフォーム東海
OAK HILLS (オークヒルズ)
岡山市役所 環境保全課
岡山ユネスコ協会
環境 NGO アジア環境連帯
環境・国際研究会
くりこま高原自然学校
こくさいこどもフォーラム岡山
国際理解の風を創る会
「心のアラスカ」～星野道夫の思いを繋ぐ
識字・日本語連絡会
自然文化国際交流協会
持続可能な開発のための教育の10年酪農学園大学委員会 (ESD-R)
森林たくみ塾
スリーヒルズ・アソシエイツ
世界女性会議岡山連絡会
全国学校給食協会
仙台いぐね研究会
創価学会平和委員会
地球環境・女性連絡会 (GENKI)
地球環境を守る会「リーフ」
TVE ジャパン
帝塚山学院大学国際理解研究所
とやま国際理解教育研究会
日本アウトドアネットワーク
日本環境ジャーナリストの会
日本ホリスティック教育協会
ハーブ平和アピール平和教育地球キャンペーン (GCPEJ)
ホールアース自然学校
緑の環・協議会
立教大学 東アジア地域環境問題研究所
有限会社(有) バースセンス研究所
有限会社(有) プラス・サーキュレーションジャパン

制作協力者一覧

.....あ▼	河邊裕子 河村久美 久須美則子 窪田栄一 小西ゆかり 小堀武信	中山修一 長倉義信 二ノ宮リムさち 野口扶弥子 野田恵	
相星素子 浅川和也 朝山あつこ アトゥール・パンデヤ 阿部治 安西英明 池田香代子 池田真里子 池田満之 市嶋彰 伊藤伸介 伊藤通子 牛山佳久 内田淳子 内村美紀 エリザベス・C.ロハス 大内敏史 大島順子 太田まさこ 大前純一 奥山淳 小栗有子 小里アリサさ▼	坂山英治 嵯峨創平 佐々木雅一 佐藤真久 新海洋子 嶋野道弘 清水悟 志村智子 諏訪茂子	フェリ・プリハントロ 藤田和芳
.....ま▼ま▼	前川実 松下俱子 村上千里 森江章 森良	
.....や▼や▼	安井至 山崎恵 吉村敏	
.....ら▼	W.チャド・フュートレル ディル・バハドゥール・シュレスター デニス・K.H.ユン	リ・チエ	
.....わ▼	富沢泰夫	若林千賀子 脇田知恵 渡邊宏美 渡辺峰生	
.....か▼	内藤元久 長岡素彦 中野民夫		

ESD-J2006 活動報告書

地域からつくる ESD ～ESD シナリオづくりに向けて

2007 年 3 月 第 1 刷発行

発行人：阿部 治

発 行：特定非営利活動法人「持続可能な開発のための教育の 10 年」推進会議

〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-53-67 コスモス青山 B2F

TEL : 03-3797-7227 FAX : 03-6277-7554

URL : <http://www.esd-j.org>

E-mail : admin@esd-j.org



この報告書の一部は独立行政法人 環境再生保全機構 地球環境基金の助成を受けて作成いたしました
この報告書は古紙 100%、白色度 70% の再生紙を使用しています

